

良寛だより

第187号

令和7年1月1日

編集発行 全国良寛会

〒951-8112 新潟市中央区南浜通2
北方文化博物館新潟分館内
(振替00620-0-1545)

お問い合わせ先 理事 本間 明

印刷所 株式会社ウイザップ

「春の野に…」こしの千涯・画

一九八二(昭和五十七)年新潟日報事業社発刊の相馬御風著「良寛物語」の表紙絵である。作者こしの千涯は、ほのぼのとした作風で親しまれ、国上山と弥彦山を背景に、長閑な春の野で良寛と子どもが戯れている。(長岡良寛の会 安達武男氏蔵)



こしの・せんがい(一八九五〜一九五八年)

本名斎藤作一 新潟市西蒲区生まれ 横山大観に弟子入りを請うたが断
われ上野日本肖像画学院に入學 生涯清貧のうちに良寛を描き続けた

リレーエッセー

良寛つれづれ36

良寛様の心がつながる街 燕市

鈴木 力

(新潟県燕市長)

良寛が燕市国上山で過ごしたのは、円通寺(岡山県倉敷市)での修行を終え諸国行脚した後のこと。寛政九(一七九七年、四十歳)から国上山中の五合庵や乙子神社草庵で約三十年間を過ごしました。このころ、良寛は万葉集や古事記などの研究にいそしみ、市井の人たちと交わるなかで書や詩歌などの「良寛芸術」と称される作品を数多く生み出しました。

また、毎年のように襲う信濃川の洪水に苦しむ人びとに寄り添い、農民の苦しみを自分の苦しみとして神を恨んだ「寛政甲子夏」を詠んだと伝わります。

一方、燕市粟生津で私塾・長善館を開塾した鈴木文臺は、若き日に牧ヶ花の解良家で良寛と出会い、以来、良寛との交流をとおして学びの実践の重要性を強く意識し、長善館では信濃川大河津分水路の建設をはじめさまざまな分野で活躍する子弟を多く輩出しました。

燕市では、子どもたちが良寛も親しんだ書を通じて、良寛の慈しみの心や自然を愛する心を学び受け継いでいってほしいという、毎年「良寛書道展」を開催するほか、子どもたちに偉大な先人たちの教えを心に刻んでもらえるように、「長善館学習塾」「長善タイム」などの事業に取り組んでいます。

市内には良寛が二度にわたり学んだ三峰館がかつて存在し、良き友であり理解者であった阿部家・解良家・原田家などがあり、これらの家には遺墨やゆかりの品が大切に残されています。これらの史料を鑑賞できる分水良寛史料館や史跡・歌碑も多くありますので、ぜひ燕市を訪れて、良寛が愛した国上山の自然とともに良寛の心に触れていただきたいと思います。